Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数（2006年８月）　　**発表日：2006年10月13日（金）**

～高水準の稼働率は、設備投資が増加を続けることを示唆する材料～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　副主任エコノミスト　長谷山　則昭
ＴＥＬ：03-5221-4525

（単位：%）

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲ 1.0	4.2	5.5	▲ 1.9	▲ 2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲ 4.6	2.7	▲ 0.7	5.2	▲ 0.1	▲ 0.7	1.5	7.3	▲ 0.7	▲ 2.7
	10-12月	▲ 0.2	2.2	▲ 5.0	▲ 8.5	0.3	2.9	0.0	▲ 0.5	2.5	9.3	0.1	▲ 2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲ 8.5	2.8	5.1	▲ 0.2	▲ 0.2	0.3	8.7	1.0	▲ 1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲ 8.0	0.4	3.2	0.1	▲ 0.2	1.9	6.3	▲ 0.2	0.2
	7-9月	▲ 1.4	0.3	3.7	0.6	▲ 4.8	▲ 2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
06	1-3月	▲ 0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲ 0.1	0.6	▲ 0.2	6.3	0.0	1.5
	4-6月	1.0	1.5	0.4	10.6	2.4	1.9	0.3	0.7	1.6	6.0	0.1	1.8
05	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲ 1.7	▲ 0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.2	0.8	▲ 0.1	4.4	2.5	▲ 1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲ 1.7	▲ 3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲ 0.1	0.4	▲ 0.2	6.5	0.2	2.7
06	1月	▲ 0.8	1.5	0.5	12.8	▲ 3.8	▲ 2.0	▲ 0.1	0.5	▲ 0.1	6.7	▲ 0.1	1.5
	2月	▲ 0.9	2.5	▲ 1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲ 0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲ 0.2	5.8	0.0	1.5
	4月	2.4	1.0	▲ 1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5
	5月	▲ 2.5	1.5	4.2	14.5	▲ 10.5	0.4	0.1	0.8	0.3	6.1	0.1	1.9
	6月	2.2	2.1	▲ 0.3	10.4	7.2	3.7	0.0	0.7	0.0	5.6	0.0	2.0
	7月	▲ 0.7	2.9	▲ 1.6	7.9	▲ 1.6	5.6	0.2	0.9	1.1	6.7	0.0	2.0
	8月	1.5	4.1	0.5	6.0	4.2	11.9	0.2	1.1	1.6	7.6	0.0	2.0

（出所）経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比＋1.5%と２ヵ月ぶりに上昇

８月の稼働率指数は前月比＋1.5%と２ヵ月ぶりに上昇した。業種別にみると、15 業種中 10 業種で上昇し、４業種で低下、１業種で横ばいとなった。

鉄鋼業が前月比▲1.8%、その他工業が同▲2.1%、繊維工業が同▲0.3%と低下したものの、輸送機械工業が同＋4.2%、電気機械工業が同＋10.5%、一般機械が同＋2.5%と上昇に寄与した。輸送機械工業の上昇は、好調な自動車輸出に加えて鉄道車両の生産が増加したことが背景にあり、電気機械工業も天候が回復したことでエアコンの生産が増加したことから大きく上昇した。また、堅調な設備投資を反映して一般機械工業も高水準の稼働率となっている。

稼働率はこのところ一進一退で推移しているが、水準はバブル崩壊以降最も高かった 97 年頃を上回りつつある。先行きについても、米国経済の減速に伴う輸出の減速が明確化してくることやＩＴ分野での在庫調整リスクがあるものの、影響はともに軽微にとどまる公算が大きく、生産は増加基調が続くと考えられることから、稼働率も高水準が続く見込みである。高水準の稼働率は、今後も製造業の設備投資が増加を続けることを示唆する材料である。

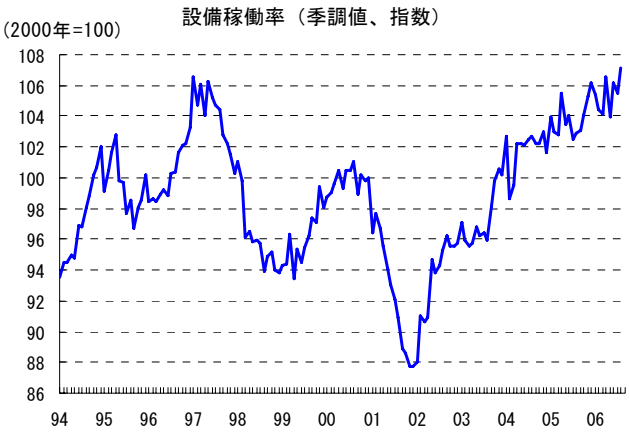
○ 生産能力指数は前月比＋0.2%と上昇

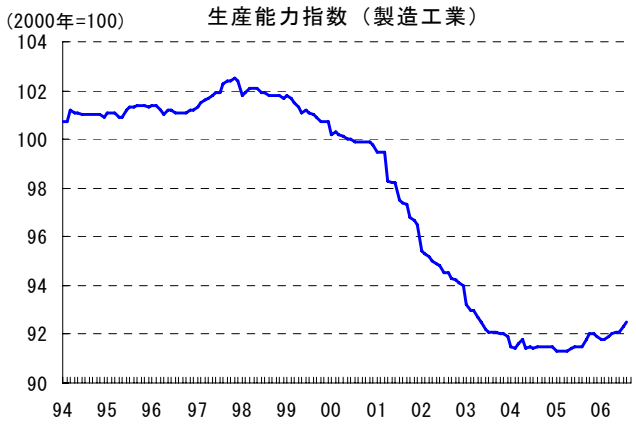
８月の生産能力指数は前月比＋0.2%と上昇した。電子部品・デバイス工業が前月比＋1.6%、情報通信機械工業が同＋1.8%、一般機械工業が同＋0.2%と上昇し、窯業・土石製品工業が同▲0.9%、化学工業が同▲0.1%、繊維工業が同▲0.1%と低下した。

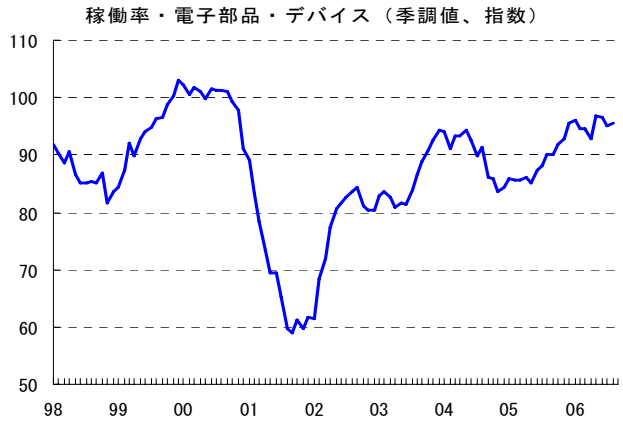
輸入品への代替が進んで国内生産が減少している繊維工業や公共投資の削減の影響が大きい窯業・土石製品工業などでは生産能力の低下が続いているが、加工業種では多くの業種で生産能力が上向いてきている。

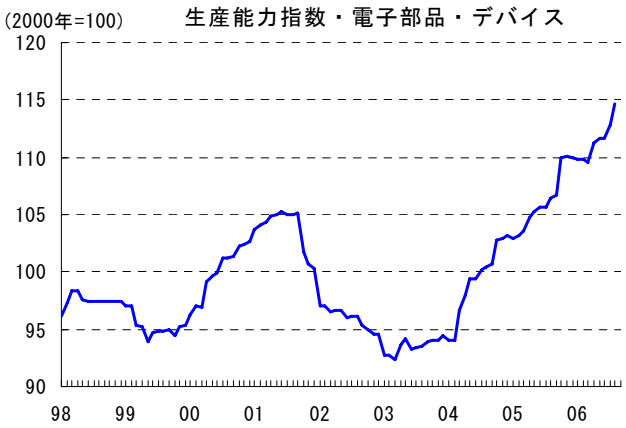
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

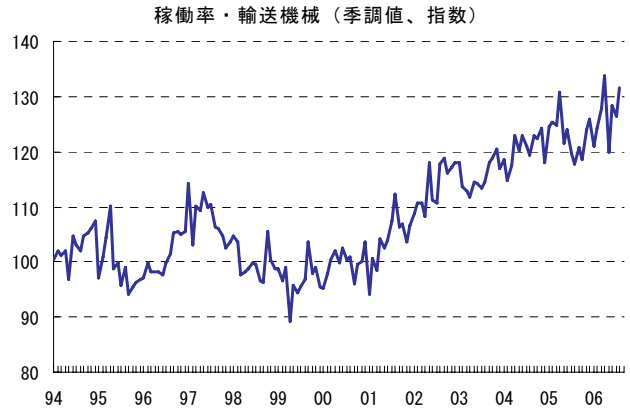
特に、電子部品・デバイス工業、電気機械工業、一般機械工業では内外需が好調なことから生産能力の向上が顕著だ。また、このところ生産能力の拡大が一服している輸送機械工業についても、能力増強にあわせて品質向上にも力を入れていることによる一時的な調整と考えられ、基本的には能力増強投資の意欲は旺盛である。輸送機械工業の設備投資計画が堅調であることを踏まえれば、生産能力は拡大傾向を辿ると考えられる。日銀短観の設備投資計画が堅調なことに加え、設備に過剰感がないこと、企業の成長期待が高まっていることから、生産能力指数は緩やかながらも上昇傾向が持続すると考えられる。

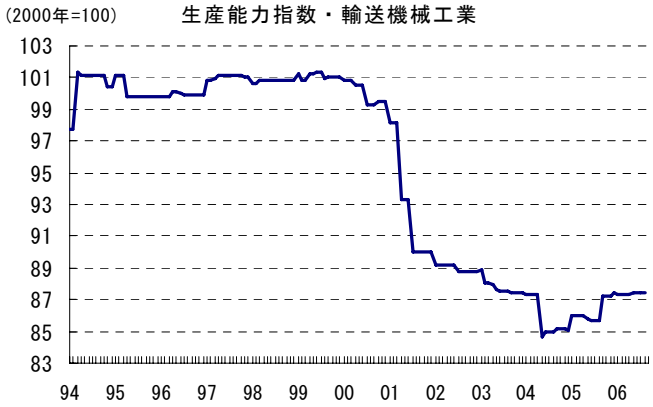












○ 鉱工業生産の確報は速報から小幅低下も、７－９月期は前期比プラスとなる見込み

８月の鉱工業生産指数確報は、前月比＋1.8%（速報同＋1.9%）と速報段階からは小幅低下した。もっとも、９月の生産が予測指数よりもある程度下振れたとしても７－９月期は前期比プラスとなる見込みには変わりない。生産は増加基調が続いていると考えられる。

なお、出荷指数は前月比＋2.5%（速報同＋2.5%）と変わらなかったが、在庫指数は同＋0.9%（速報同＋1.0%）、在庫率は前月比▲5.4%（速報同▲5.3%）とそれぞれ下方修正となった。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。